

様式第 1 （第 1 5 条関係）

会 議 録

会議の名称	令和 3 年度第 2 回和泉市障がい者施策推進協議会
開催日時	令和 4 年 2 月 1 6 日（水） 9 時 3 0 分から 1 1 時 3 0 分まで
開催場所	和泉市コミュニティセンター 1 階 中集会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・和泉市障がい者施策推進協議会委員 大谷委員、清水委員、小尾委員、今村委員、佐藤委員、花谷委員、藤野委員、木下委員、樽本委員、大塚委員 ・事務局 黒川（障がい福祉課長）、原（障がい福祉課課長補佐）、宮本（障がい福祉課障がい者支援係係長）、前田（障がい福祉課）藤原（子育て支援室こども政策担当総括主幹）、伊勢（子育て支援室こども政策担当主査）仁木（子育て支援室こども政策担当）上野（子育て支援室こども政策担当）
会議の議題	1. 開会 2. 委員紹介（委嘱状交付）及び事務局職員紹介 3. 和泉市障がい者施策推進協議会の会長・副会長の選任について 4. 第 3 次障がい者計画及び第 4 次障がい者計画について 5. 第 5 期障がい福祉計画・第 1 期障がい児福祉計画及び第 6 期障がい福祉計画・第 2 期障がい児福祉計画について
会議の要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・第 3 次和泉市障がい者計画、第 4 次和泉市障がい者計画における最重点施策の取組みについて報告を行った。 ・第 5 期和泉市障がい福祉計画、第 6 期和泉市障がい福祉計画における取組み及び成果目標について報告を行った。 ・第 1 期和泉市障がい児福祉計画、第 2 期和泉市障がい児福祉計画における取組み及び成果目標について報告を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）

その他の必要 事項（会議の 公開・非公開、 傍聴人数等）	会議：公開 傍聴者なし
---------------------------------------	----------------

審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）

開会

委員紹介（委嘱状交付）及び事務局職員紹介

会長（大谷委員）挨拶

【議長】

議題 1、第 6 期和泉市障がい福祉計画における取組みについて事務局からご報告をお願いする。

【事務局】

第 6 期和泉市障がい福祉計画における取組みについて報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

国や府は各計画の目標値に対する実績の把握がリアルタイムではできておらず、それに比べて市はいち早くデータの収集を把握できているようだが、市では国や府のデータを含めての全体的な実績の把握をどのくらいのペースで行っているのか。また、市単位ではどのようにして市内のデータを収集しているのか。

【事務局】

就労人数調査についてということか。

【委員】

それも含めて全体についてお聞きしている。

【事務局】

例えば大阪府で把握しているものとしては就労人数調査がある。就労系サービスの利用を通じて一般就労に結び付いた方の人数、あるいはその定着ができた人数を調査するもので、大阪府の調査に基づいて把握を行っている。この調査結果を踏まえて事業者の今後の取組み方針や工賃向上計画の検討をしており、就労支援部会においても意見交換を行いながら全体的な把握に努めている。

【委員】

就労人数については大阪府からのデータを逆輸入する形になるのか。地域移行者数等は市のほうが数値の把握が早いと思うが、市で取りまとめて府に報告するものと、府から数値の報告があるものがあるが、その仕分けを教えてください。

【事務局】

先ほど申し上げた、就労人数調査については、各事業所から報告のあった数値を市から府に報告するので、数値の把握は市が先である。各年度の 1 回目の施策推進協議会においては、前年度分のサービス利用者数を報告する。補足になるが、市での就労人数調査

は、和泉市内の事業所を利用して一般就労に結びついた方の人数は把握できるが、他市事業所を利用して一般就労に結びついた方の人数は府の取りまとめ結果により把握を行う。それら調査結果を踏まえて市の就労系サービス事業者の体制強化に努めていく。

【議長】

今年度の実績報告は来年度になる。

議題２、第４次障がい者計画における最重点施策の取組みについて、ご報告をお願いします。

【事務局】

第４次障がい者計画における最重点施策の取組みについて報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例について、今年度の取り組みが市民向け講習会とあるが、内容はどのようなものか。

【事務局】

職員向け講習会と同様に、聴覚障がいとはどういうものか、聴覚障がいがあることでの困りごととはどういうものか、また、挨拶等の簡単な手話を紹介し実践した。

【委員】

コミュニケーションの方法は手話だけではない。筆談等もあるが、それも含めて講習はされるのか。また、今までもされていたか。

【事務局】

全てのコミュニケーション手段について触れているわけではないが、講習会では条例制定の目的等も説明はしている。また、手話の紹介だけではなく、筆談の際に気を付けるポイントも紹介している。

【委員】

市民向け講習会ではなく手話講習会と言えばよいのではないか。例えば点字講習会やパソコン講習会等、講習会の内容が分かるようにしてはどうか。

【事務局】

講習会開催の周知の際には、手話に関する講習会とわかる表記にしている。

【委員】

講習会の内容は分かるようにするべきだと思う。

【議長】

見せ方については今後ご意見を尊重させていただく。

【委員】

これからは手話以外にも、難聴者や中途失聴者、盲ろうの方向けに点字など色々な講習会をしてほしい。

【委員】

重点施策が3点あるが、3点目の和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例について、制定時、視覚障がい者協会としては情報のバリアフリーについても入れてほしいと要望していた。手話の理解を求めることも重要だが、聴覚障がいと視覚障がいは対角線上にあるというか、コミュニケーションが本当に難しい。また、特に視覚障がい者は情報収集が難しく非常に困る。蔓延防止措置や緊急事態宣言、特別給付金、ワクチンの接種などもそうだが、全員がインターネットを利用できると思われるのは困る。高齢の視覚障がい者はできない。そのため音声化に取り組んでほしいと要望しているが理解してもらえない。読書バリアフリー法があるように皆に平等に情報が届くように検討してほしい。

【委員】

職員向け講習会の対象職員を教えてほしい。また、市民と職員という2つのカテゴリーに分けているが、あいサポート運動については子どもの参加が可能か。子どもへの取組みは成長する過程で良い効果が期待でき、親に対する啓発にもなる。

【事務局】

対象職員は市役所の職員である。先ほど名称について話が出たが、今年度は手話で広がるコミュニケーションという副題で講習会を実施した。子ども向けとしては、4年生の生活の学習として知的障がいや肢体不自由等の学習していると聞いている。また、担当課においても幼少期からの理解の必要性を認識している。情報のバリアフリーについては、障がい者福祉計画や障がい福祉課の広報物にはユニボイスコードを記載するなど、積極的な活用を勧めている。

【委員】

和泉市手話言語の理解及び普及並びに豊かなコミュニケーションの促進に関する条例の推進については新しく出た課題はないのか。

【事務局】

取り組むべきことはまだまだたくさんあるが、明らかに出了課題のみの記載としている。

【議長】

各委員の意見を今後の新しい課題として検討させていただく。

議題の3、第2期和泉市障がい児福祉計画における取組みについて事務局からご報告をお願いします。

【事務局】

第2期和泉市障がい児福祉計画における取組みについて事務局から報告

【議長】

只今の報告について、委員からの質問・意見を求める。

【委員】

情報のバリアフリーの話が出ていたが、資料の見せ方について、文字の大きさ等もう少し工夫をしてほしい。

【事務局】

今後に向けて改善する。

【委員】

文字を大きくすることも大事であるが、もう少し詳しい説明も添えてほしい。

【委員】

分かりやすい情報提供としてのガイドラインも出ている。新たなことに取り組むなど内容は意欲的で良いので、その見せ方を見直し、分かりやすい資料にするべきである。

【委員】

第2次障がい児福祉計画について、和泉市の障がい児保育は充実しており、学校給食も中学校までであることから他市からの転入が多い経過がある。ただ、公立保育園が10年前は10数園あり、公立園と私立保育園が同数になるようにと言っていたのが、今は公立保育園が4園か5園になるということを伺った。認定子ども園や私立保育園で障がい児の受入がきちんとできているのか、数値化して動向の確認をしてほしい。公立保育園が減ることで、働きに出たい保護者のニーズに応えられているのか。市として私立も公立も平等に、地域で障がい児保育をするということであれば行政として数値を把握してほしい。

【事務局】

令和3年度の要支援児保育、いわば保育士の加配が必要となる子どもの支援実施体制について、所管しておりますこども未来室に確認した。今現在公立保育園は9園、公立幼稚園は2園、その他民間の認定子ども園が23園、民間の認定保育園が1園ある中で、要支援児保育の対象となる子どもの受入は、子ども2人について保育士1人の複合加配という場合と子ども1人について保育士1人の個人加配、この2つがあるが、複合加配の対象となる子どもは令和3年度当初で125名、個人加配の子どもは3名、計128名を受入れている。公立の保育園は9園あり、複合加配の子どもは43名、個人加配の子どもは7名受入れている。公立幼稚園は2園あり、幼稚園においても複合加配の子どもは8名受入れている。合計186名が要支援児保育として市内の園に在籍している。

【委員】

懸念されるのは数字が後退していないかどうかである。経年で推移を出してほしい。

【委員】

昔は保育園入所も難しく、行政の方と何度も話を重ね入所に至ったが、現在は障がい児に対して手厚い相談機関等ができて、和泉市の努力が伺える。186名が市内の園

に在籍とのことであるが、卒園後の小学校や中学校での支援はどうなっているか。通常は中学校までは地域の学校へ通い、その後は支援学校に行くが、小学校中学校から支援学校に行く子どもも多いと感ずることがある。共に育つ教育を受けることが重要であると思うが、支援学校との交流ではなく、せめて義務教育の間はみんなが地域の学校に行けたらと思う。地域の学校に通う子どもと支援学校に通う子どもの割合を教えてください。

【事務局】

把握していない、確認する。

【委員】

合わせて医療的ケア児支援法が昨年9月施行となっている。保育所に在籍している医療的ケア児、あるいは地元の小中学校に在籍している人数の報告もお願いしたい。

【事務局】

また調べて報告する。

【委員】

第2期和泉市障がい児福祉計画における取組みの2項目、今後の取り組みについて、通学する6校はどちらの学校か。

【事務局】

内訳の把握はしていないが、ケアが必要な子どもが入学する場合は他の学校と同様に対応している。今現在医療的ケアの必要性があつて看護師を配置しているかどうかは把握できていないため、また調べて報告する。

【議長】

2つ目の案件について、子ども部会設置することについて何かあるか。前回の協議会において子ども部会設置については了解をいただいていたが、児童発達支援ネットワーク会議に諮った上で改めてこの案が出てきた。具体的に言うと、資料の2の1、地域での生活基盤づくりで各種部会があるが、その部会の1つとして子ども部会を位置づけ、障がい児者一体的に障がい福祉計画、障がい児福祉計画を進める体制をつくるものである。これについて、資料3にあるとおり、令和4年度1年間で課題整理を行い、令和5年4月に子ども部会設置をする方向でよいのか。

【事務局】

次期計画策定もあるので、令和5年4月設置と考えている。

【議長】

各委員ご了解いただけたか。施策推進協議会として自立支援協議会の下部組織として子ども部会を令和5年度を目標に設置をする方向で了解をいただいたということで、進めていただければと思う。実現できるようにお願いしたい。議題の3、障がい児福祉計画についてと今後の子ども部会の設置についてみなさんの了解をいただいた。議題の案件としては以上だが、本日いただいたご意見の中で情報のバリアフリー化については今後気をつける。

【委員】

情報バリアフリーについて、協議会においてUD トーク等の利用を検討してほしい。

【議長】

検討する。

【事務局】

UD トークは1対1の会話には良いが、こういった会議には向いていない。今回導入しているヒアリンググループ等、既存の機器等でどこまで対応できるのか確認をする。

【委員】

あいサポート運動を今後も和泉市内でどんどん広めてほしい。私も町で目の不自由な人やヘルパー同行の方、高齢者の方とすれ違う際は一言ご挨拶をしている。最近は駅でも困った方を見かけたら声をかけるようにとアナウンスが流れる。和泉市も挨拶運動を広めているので、そういったあたたかい市になるよう、あいサポート運動を引き続きよろしくをお願いしたい。

【事務局】

以上をもちまして、令和3年度 第2回和泉市障がい者施策推進協議会を閉会させていただきます。ありがとうございました。